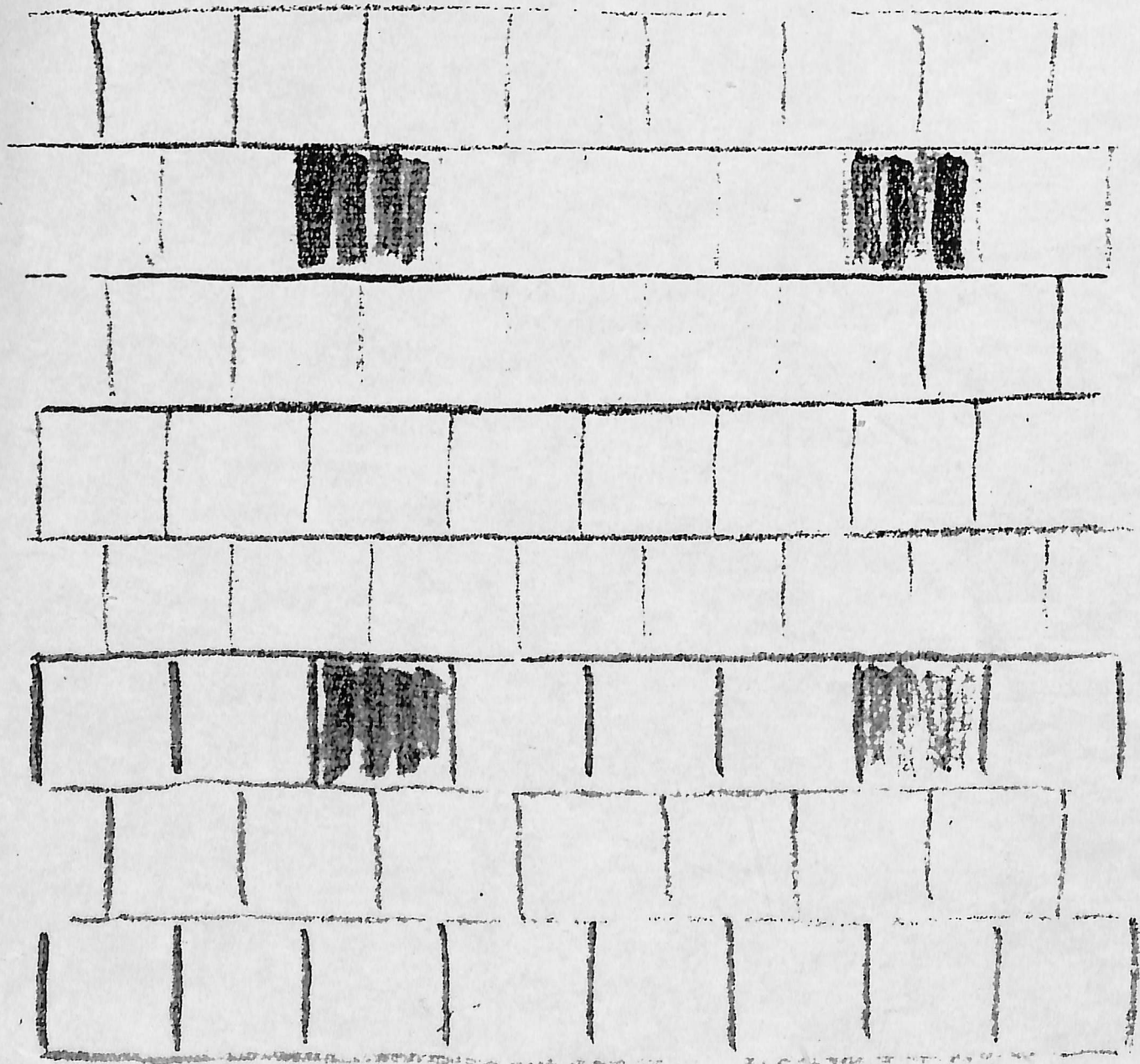


一
人
か
方
大
築
石
一
物
石
三
残
入
築
一
り
残
入
築
一

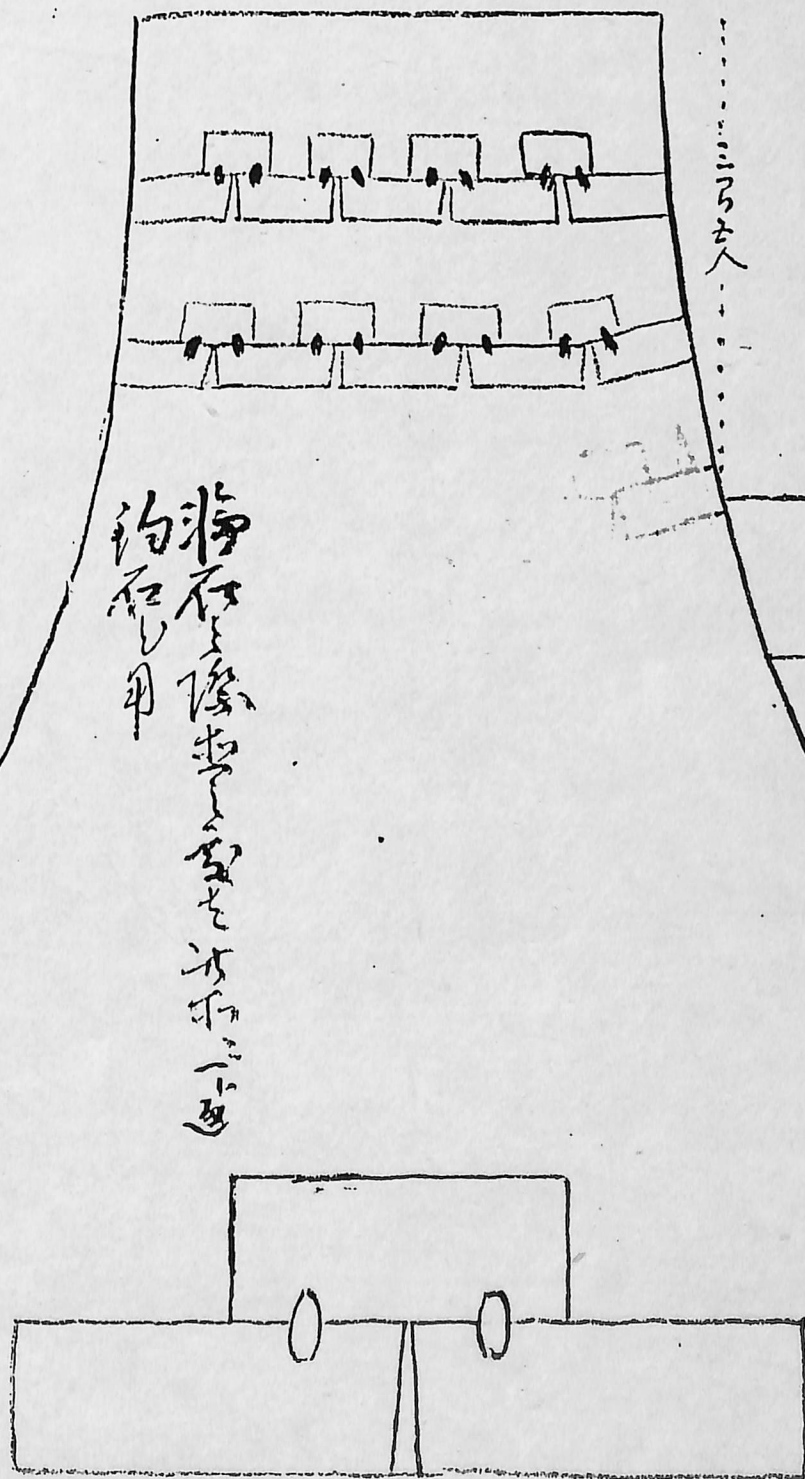
物
石
三
用
格



目
横
分
石
形

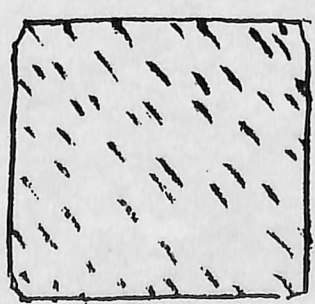
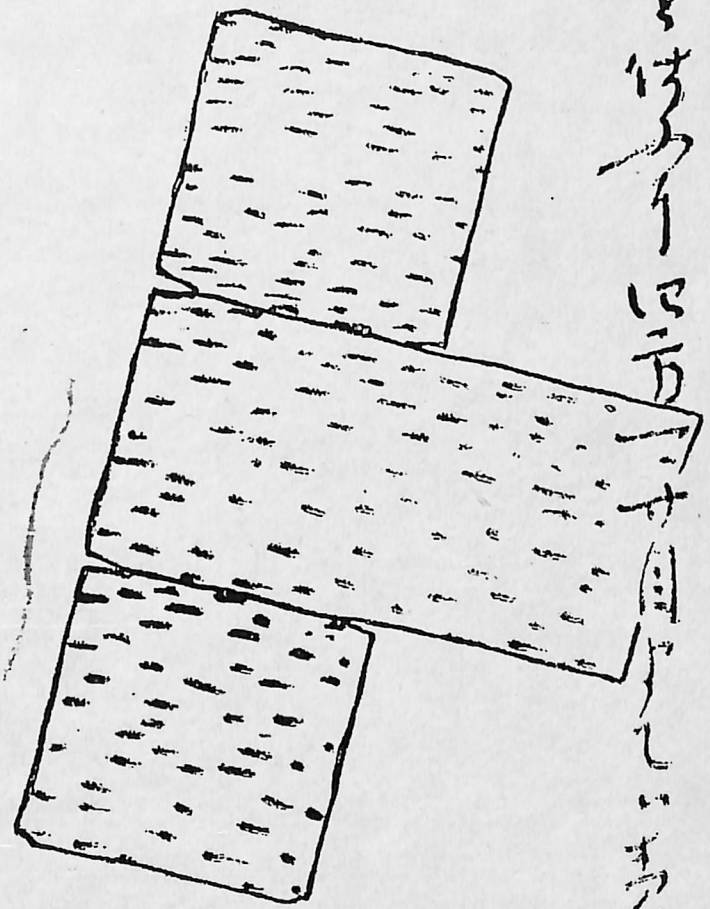
白
紙
三
寸
五
分

物
石
三
用
格
一
物
石
三
用
格
一
物
石
三
用
格
一

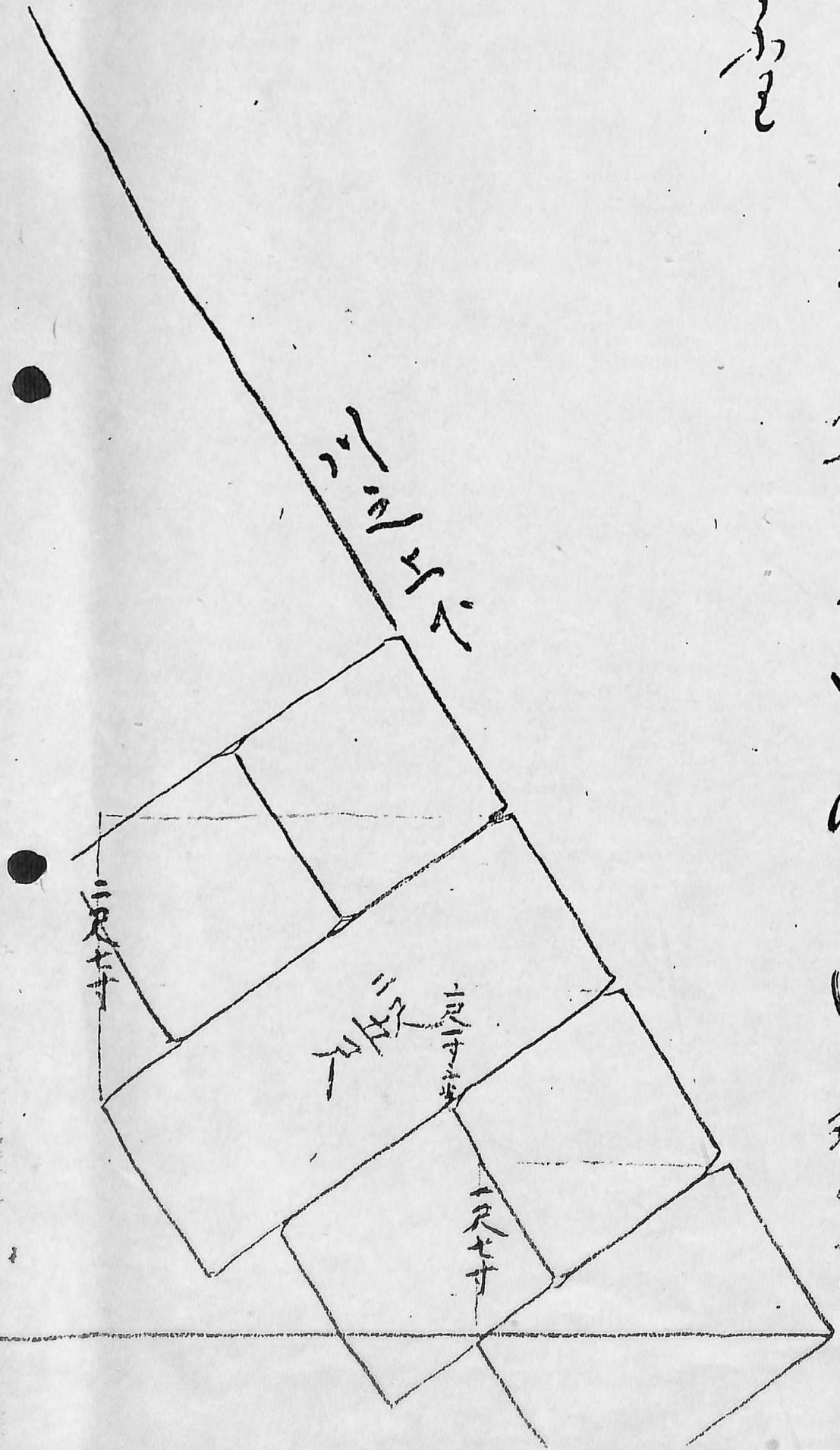


○ 三石石垣の築き方
 三石石垣は、築き方により、利方より、又、築き方の
 説、石の、築き方、二尺、三尺、以上、に、石、の、利、方、二、尺、三、尺、と、す、た
 け、の、利、方、

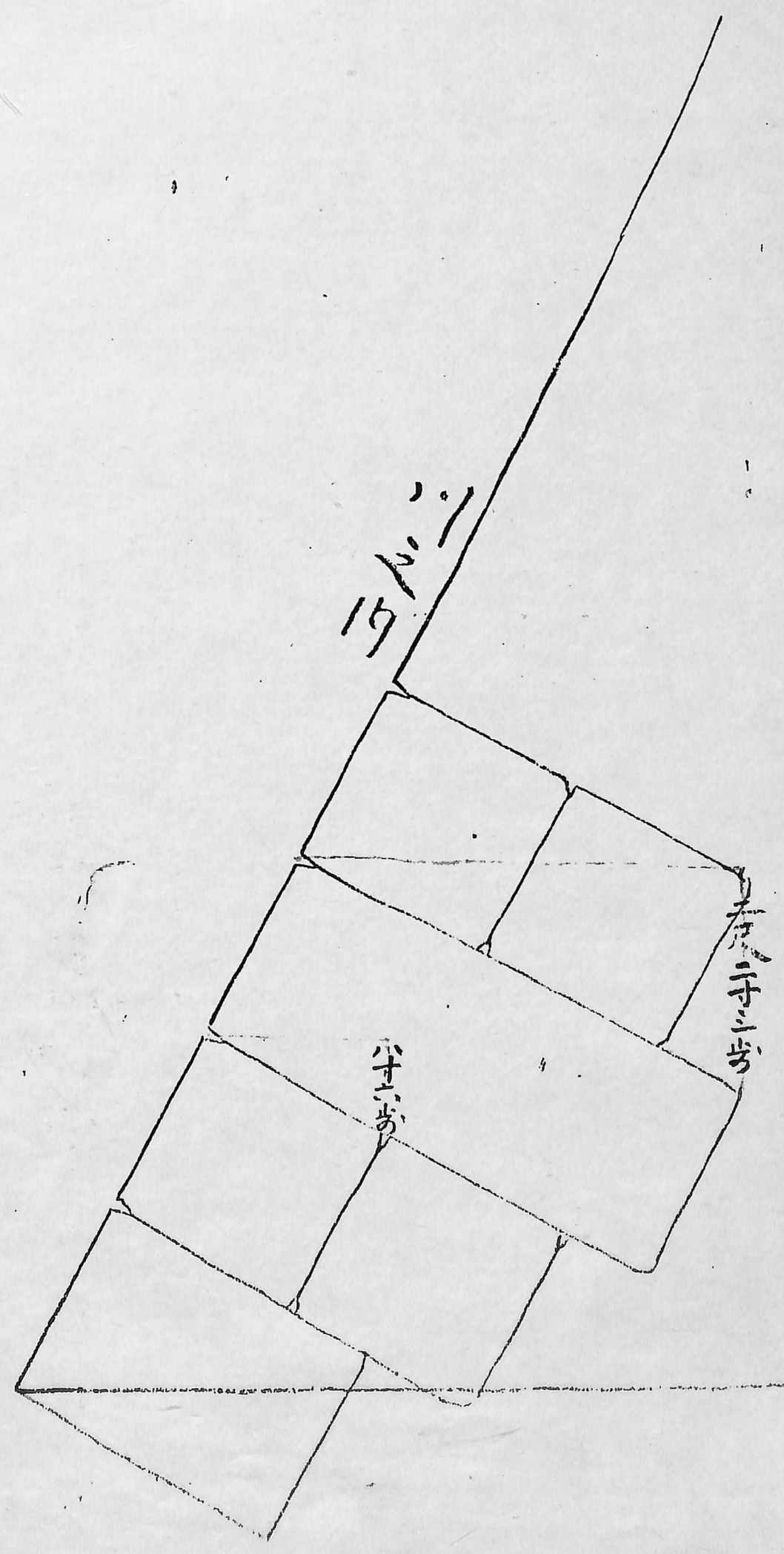
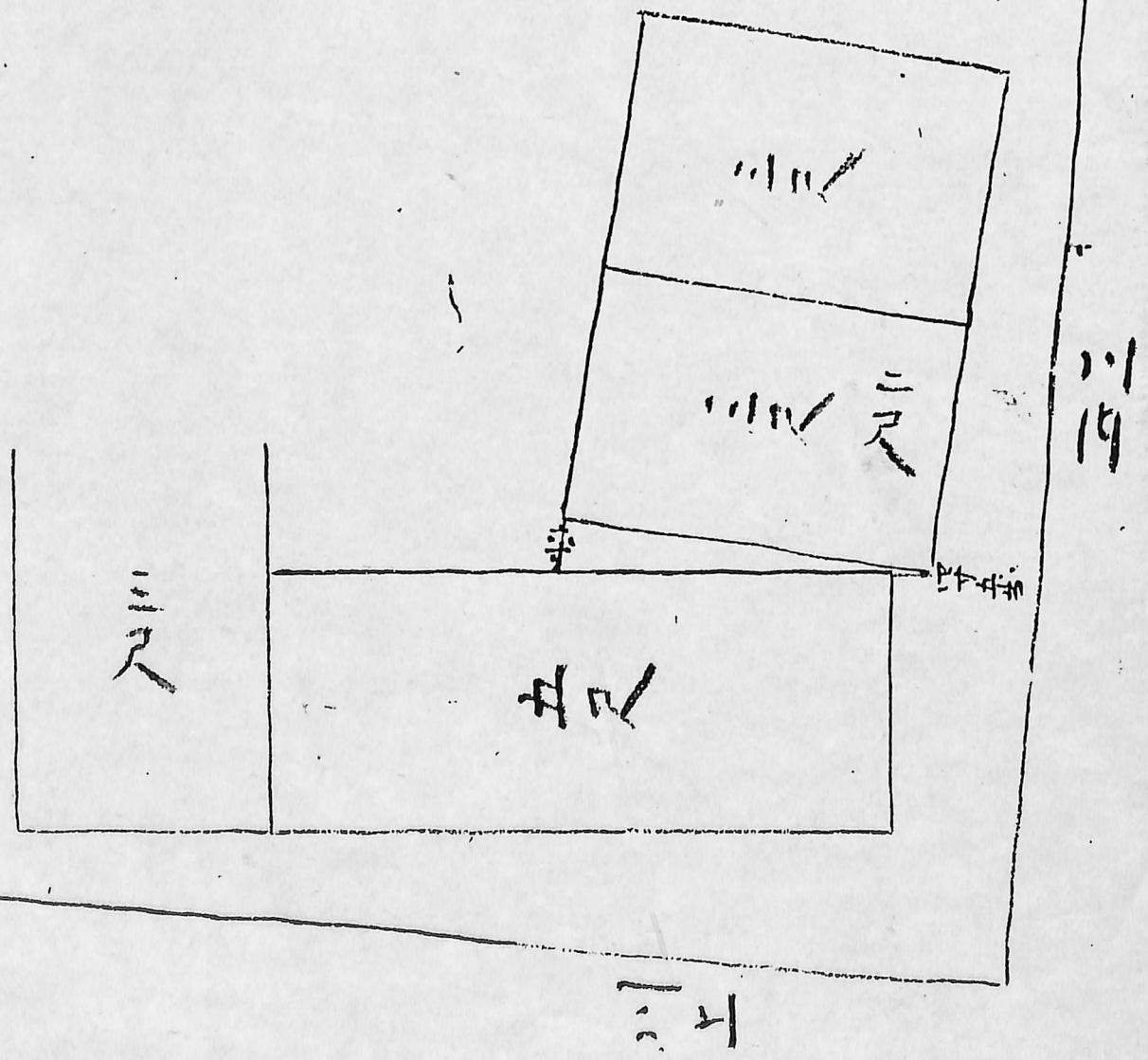
○ 石の枚目、二寸目の、半、指、石、の、利、方、二、尺、三、尺、と、す、た
 石、の、利、方、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た
 石、の、利、方、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た



新石垣の隅に、石、の、利、方、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た
 二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た
 二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た
 二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た、二、尺、三、尺、と、す、た



根石並上り足板



第一間おの割

心のゆりちゆしきや
やまののきゆしき
うごに石可也
柳とてき

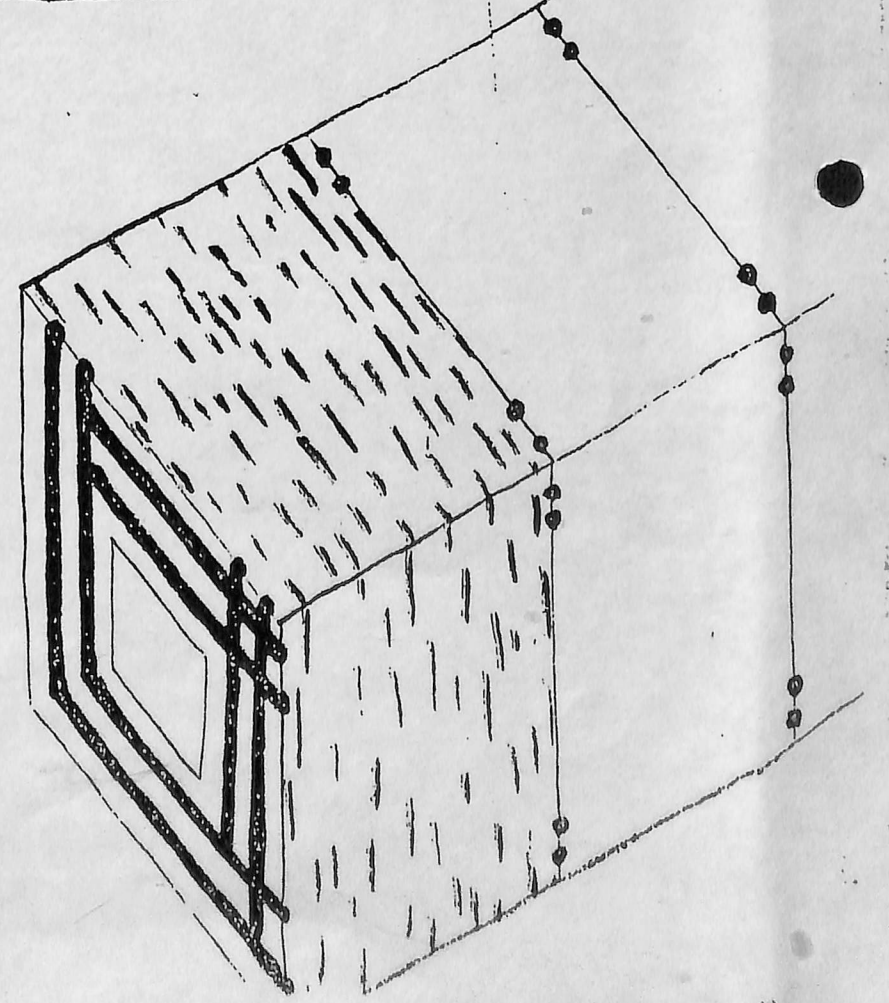
おのちた右一
きんち

おのちた

板橋

おのちた

おのちた



○右景のふりしほちと月
一寸二二方

○うねりふりしき石と
おのちた

○おのちたの柳石と月
ほちたの柳
諸君のふりしき

おのちた

おのちた

年 五十二

二五
二五

二五
二五

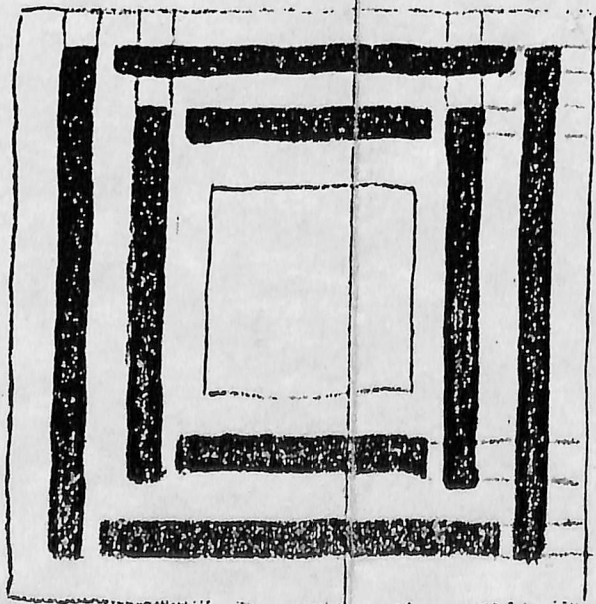
二五
二五

二五
二五

○ 水戸藩家臣の墓

はる遠くへお別れ

お別れ



○ 第一の墓

○ 柳の曲は二つ、小刻な墓

是は別れ板、石の利

○ 柳石と築時、石の利

はる遠くへお別れ

お別れ

[illegible]

112312

11 22
11 22 11 22

11/25
11/27

水門落也止以高一尺二寸

趙五長六折乃足

735151110

徐公

あ又の通り様、様々の紙可もて
引きつゝ、後々の法帖の
出さぬ

二、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

乞一便報

燒酒
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

小成りともよみぬた友との祝ふ川横に力す日迄
砂を中へ

水邊より急流の川へ丸塊の交やそや桶
とれたてりおれうらささのゆきましく用にとりた友
との祝ふ

塩を合

杉葉汁

二日斗きる

右の如く橋合二日二斗 痺やれ橋く日少南乾
くいふ後かぬきるといひていひて推す塩をこしり

るに二斗に川も割る塩のさきとて利 おちのちのちのち

○時候は月、日、二時、四時、六時の祝ふ

○諸ふたのち乾きぬ風とて塩を新印するたに

入極板せしめくち極海弱おれふからくち極の

は塩をちと入りて貝たう取



果のふたをいにかちと入諸にち入送極橋

○極中極諸きいさ溪のうらとちとさきとさきと

あつて一日の形とていふ(おちのち)

大石運送車

車も肩持し板の長短ふらふ定より長短十一尺より三十
一節丸木造りて板の板の板と云ふは板の板と云ふは
いそふふいそふ板と云ふは板の板と云ふは板の板と云ふは
けりやといふは板の板と云ふは板の板と云ふは板の板と云ふは

諸名

長二尺二寸五分

〃 長二尺二寸五分

諸名

諸名

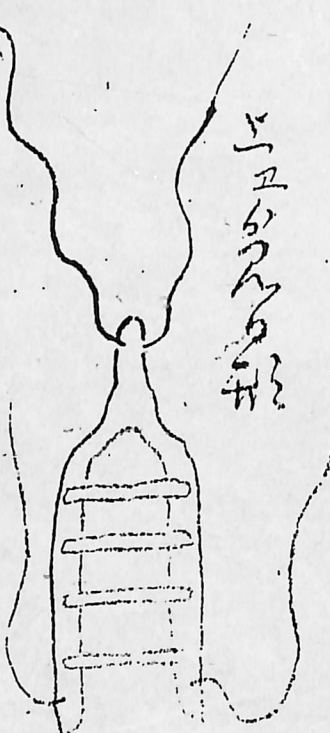
長二尺二寸五分

諸名

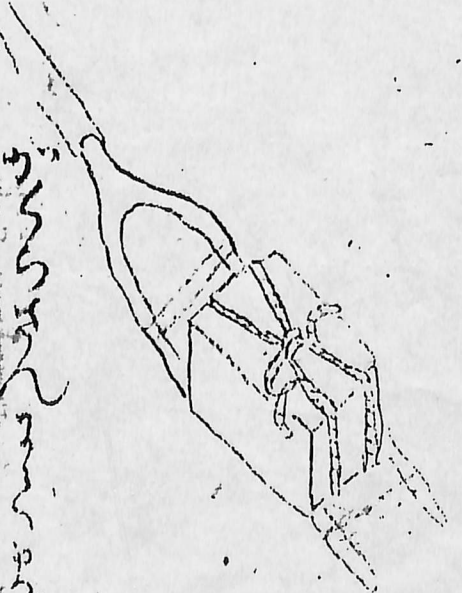
長二尺二寸五分

六の板肩持し板の長短ふらふ定より長短十一尺より三十

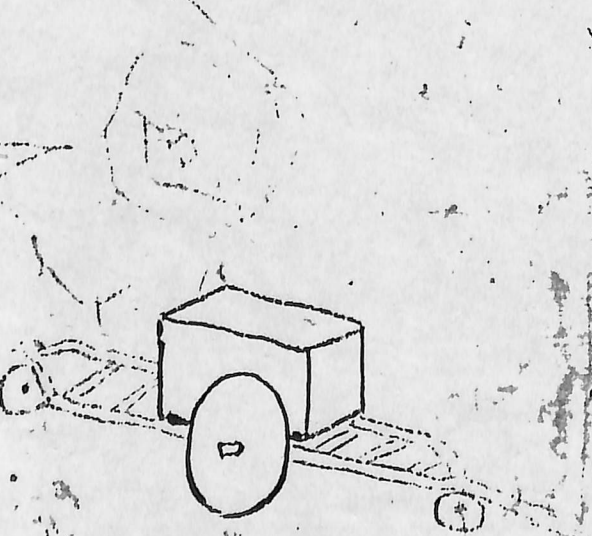
〇 牛といふは板の板



と云ふは板の板



と云ふは板の板



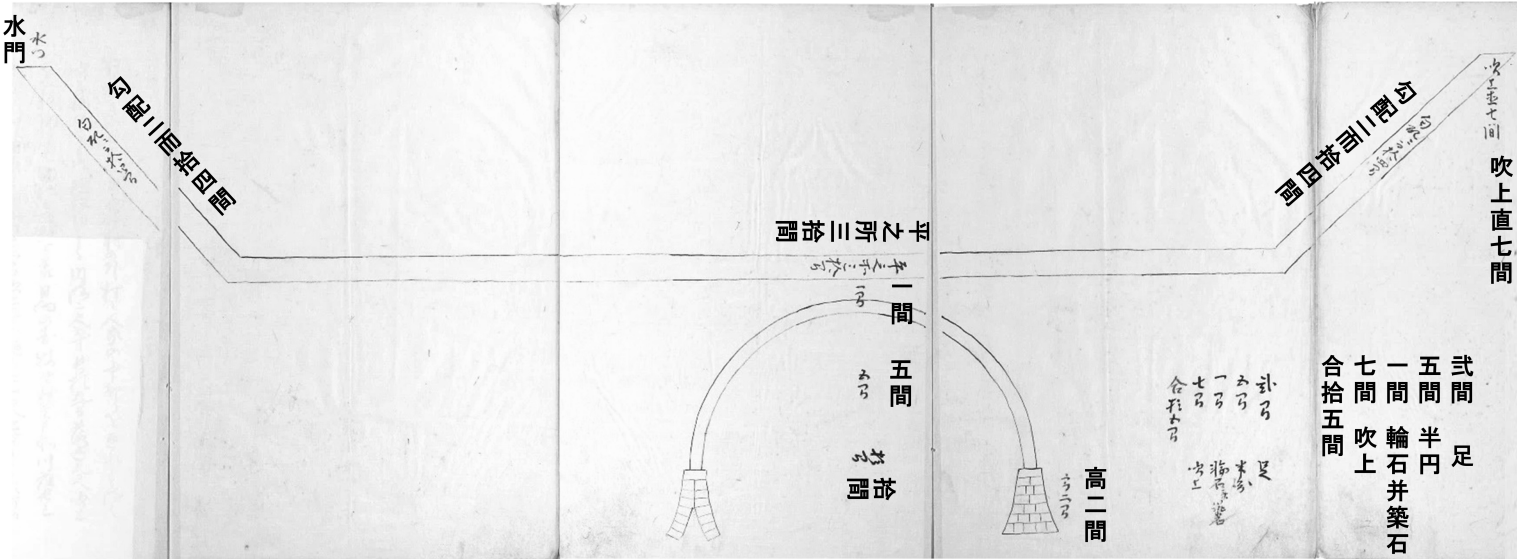
お後のお車といふは板の板と云ふは板の板と云ふは板の板と云ふは

【史料一】（通潤地区土地改良区所蔵）
（表紙）
通潤橋仕法書

（本文）

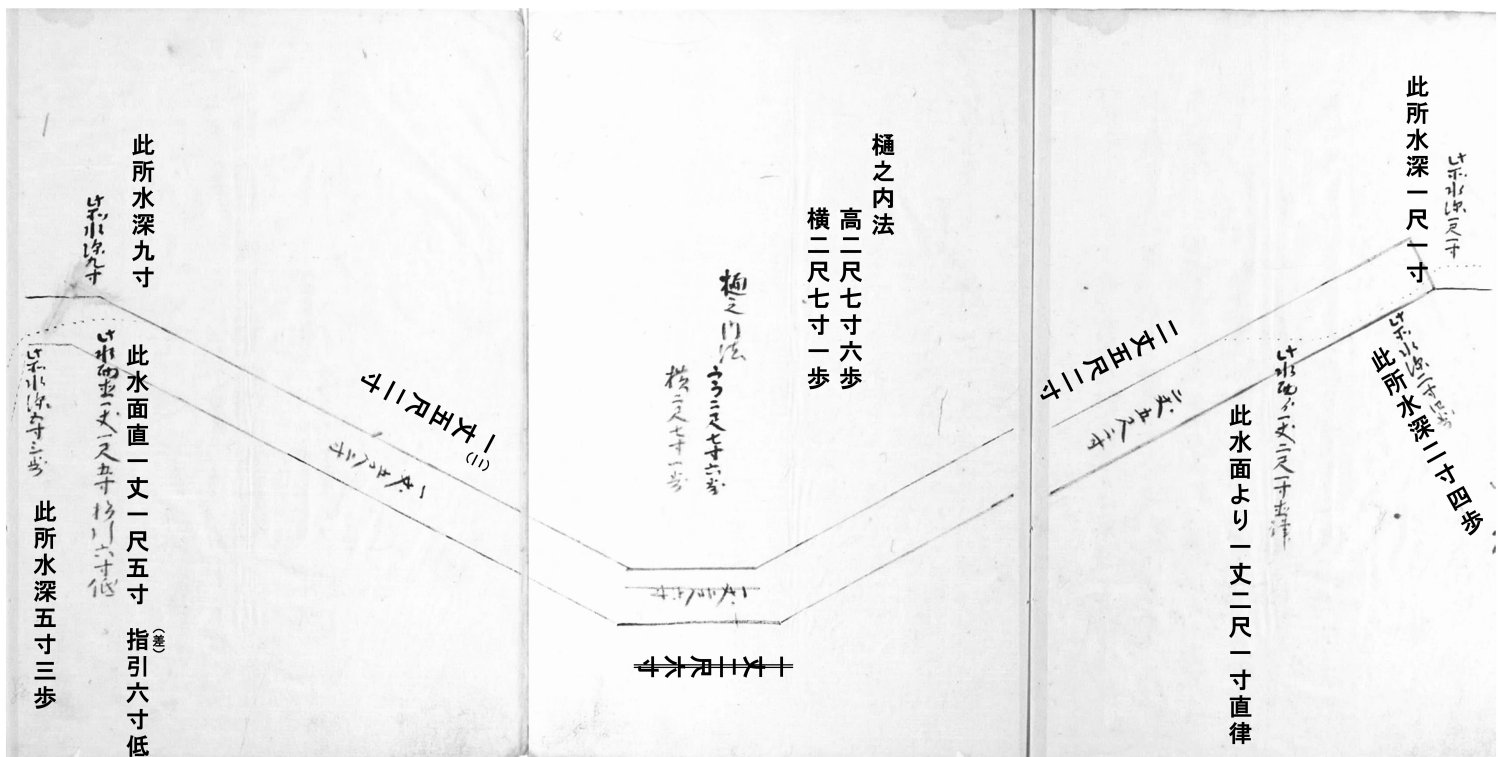
南手在に笹原川を移すに、轟川車橋高五間、足二間、輪石と築石一間、都合八間築、其上水戸にて移すも田になすこと少、また村々人家のあたりに通水しかね、人馬の喰用に成かたき村々有、よつて車橋八間のうへ、七間の吹上樋にて水を移すときハ、都合高拾五間に成る、左の図に顕す、

（挿絵一）



右図のとふりにてハ、長野村の外、村々人家の中ほとを通水する也、
 吹上樋のことは、廻江内にて内法二尺五寸、長拾九間、落込九尺、吹上
 六尺、板樋にして田地三百町を養、日向の国牧野村と申所、川底長三
 十間、川と申者溜水のよし吹上樋落込二間、吹上九尺、樋の口一尺七寸にて、拾町の
 田を養ふ、打込二間は次第下りの所、長廿六間有る也、薩州家中ノ大
 名屋敷泉水、吹上水戸にて拾間余も有り、仕法ハ聞取得す、所柄
 また近方にて、竹筒にて喰用水の吹上樋ハ間々多し、然れども
 高六、七間、水勢多吹上樋の例を聞す、故に嘉永四年亥十月十二日、轟
 川にて樋の内法二尺七寸方、板の厚一寸五歩、三尺越し 樋 締にて、高
 九尺九寸にして通水試るに、九寸低にして通水しけるに、忽ち樋板
 も割、樋力 樋 も崩れ、例しに成かたし、左の図に顕す、

(挿絵二)



嘉永五年子の春、五老ヶ瀧吹上の所に准し、高七間、平の所三十間にして、笹原川にて板厚二寸、五寸角の（桶力）櫓柱三尺越にして、同年閏二月十四日試るに、直律四間半吹上たる時、数ヶ所樋板破れ通水しかたき故、激する所は石にて



此通りにして接目漆喰にて

堅め猶試るに、漆喰吹出し石樋も半を過割れ、厚二寸の松板も損し保かたし、よつて張りわ四寸に石の操（櫓）貫にして○（接目の仕法石樋の条に委頼）漆喰種々に試るに一つとして保かたし、其訳ハ漆喰乾ぐと石との間た厘毛の透目出来る故也、後道奥の漆喰の条に顕す通りの仕法にて、水ハ保つといへとも、吹上の曲り手十三、四間の間、厚四寸の操（櫓）抜の石樋も板樋も破れ、通水しかたし、激する所、石樋の張りわ一尺にして接目鉄（桶力）鑄込ミと前文の漆喰にて堅め、板樋者一尺五寸越に（桶力）櫓を懸、嘉永五年子三月十三日に試るに異儀なく通水し、落込高七間、吹上六間五尺四寸、さし引一尺二寸低、左の図に顕す、

（挿絵三）

附、板樋一尺五寸越しの（桶力）櫓締にして、厚二寸、三寸の板、水の激する所ハ板、弓を張る出（櫓）故、板の厚ミを増とも洩なきよふに行れかたく所、石の操（櫓）抜を後段漆喰の仕法にて永続の見亘、治定する也、鉄鑄込の接目ハ水洩るゆへ、塩水をたゝへさひを出して洩を留る也、鉄鑄込ハ堅固なれとも接手の仕替・手入にて間延になり、造作も多き也、水の激すること、杉の板目をしたひ木口より水をしめ出し、前に顕す通り二寸、三寸の板一尺五寸の（桶力）櫓間ひにて弓を張ることにて、激水の甚敷を知へし、

○鉄鑄込ハ穴に入るほとんどの鉄棒ふひごにてわかし、甘扁（透）ほと穴に指入れ、石の漆（透）氣を去り能乾き、石のあたゝまり強き故、鉄と石之思ひ合よき也、

○吹上樋高六間五尺四寸、試るに異儀なけれども、余吹上高くといふ論説有て、○（水面二間上）左右の盤石より輪石築立、砥用船津橋の仕法を踏、橋幅十五間三尺、半円、七間七合五勺、輪石の厚三尺、築石三尺、惣高拾間七合五勺二成、吹上樋ハ直律四間に成、夫たけ樋ハ丈夫ニなれとも、橋の太く成たけ造作多くなる也、間数格好左の図に顕す、

（挿絵四）